

令和2年度 政策討論会 第二分科会(第6回) 要点記録

- ・日時 令和2年12月22日
- ・場所 第2理事者控室
- ・会議時間 10:00～11:10
- ・出席者

雪本 清浩(座長)

友永 修(副座長)

田中 市子

堂本 啓祐

反甫 旭

米田 貴志

岡林 憲二

(座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. 観光課を通じて、KIX 泉州ツーリズムビューロー様を招聘し、これまでの取組み状況や観光事業などについて説明を受けた。その後、議員間による意見交換を行った。
2. KIX 泉州ツーリズムビューローは、DMO 化を進めているが、登録要件に対する自己評価・数値目標の未達成が残っており登録はまだされていない。2021 年度登録を目指し進めているところである。基軸となる取組みとして、①泉州地域広域観光連携協議会にワーキングチームを設置し定期的に会議。オープンファクトリー(伝統技術の見学・体験会など)ものづくり観光を企画。また、②泉州観光地域づくり連携協議会を10月20日より設置。現在は、31事業者が参加し連携協議を進めている。そして、泉州サイクルルートを活用した取組みについては、ぐるっと泉州サイクリングマップを作成、また泉州・和歌山エリアの周遊スタンプラリーなどを企画。その中で、サイクリングマップに掲載されているサイクルステーションとして岸和田市内には二カ所がある。そのうちの一つがサイクルピア岸和田 BMX であるが、競輪場の活用にはつながっていない。全体的な課題として、ステーション内にサイクルラック・スタンド等の未整備箇所が多いこと、13市町の温度差により統一された目的感が弱いことなどではないかとの意見が出された。
3. 次回の討論会日程は、1月21日(木)10時～とし、これまで抽出された課題解決に向けて、岸和田市の取組むべき今後の姿についてまとめていく予定。

<各議員の発言要旨>

※順不同

●観光課、観光振興協会、KIX 泉州ツーリズムビューローが連携して本市の観光促進を進めてほしい。競輪場が改装されている事もあり、3者が話し合い、役割を持ちながら競輪場のある街、岸和田をアピールしてほしい。

●いろいろなマップやチラシを作って頂いているので、それらを使っての情報発信は本当に大事だと思います。これからは、オンラインでも情報発信をしていく必要があると思いますが、オンラインを使えない人たちもまだまだおられるので、そういった人たちにオンラインの使い方などを知って頂く必要もあると思います。そして、いろいろな方々が実際に観光地などを巡り、その様子を動画にして、YouTube などの動画で情報発信をして、いろいろな方々に観て頂き興味を持って頂くことも大事だと思います。

●サイクリングに関する施策は広域連携で行うべきだと考える。そのために、KIX泉州ツーリズムビューローがしっかり情報収集をして取り組んでいただきたいと思う。また、民間企業とも連携をしながら、進めていただきたい。

●泉州サイクリングロードは魅力のあるルートであると再認識した。競輪場がそのコース上にあるというのは、好立地。「泉州観光地域づくり連携協議会」としても“「3密」を避けた旅行形態として「サイクリング」などが注目され…ビジネスチャンスがあると認識している”としており、ぜひ活用を。ホテル建設については懐疑的だが、近隣に合宿用の施設が乏しいため、競輪場を活用する学生などが利用しやすい施設は検討に値すると考えている。

●9市4町において、KIX 泉州ツーリズムビューローの捉え方の温度差が激しいと考えている。それを KIX 泉州ツーリズムビューローだけに問うのも厳しいと考える。まずは岸和田市が本気で KIX 泉州ツーリズムビューローと連携を取って進めなければ、活性化した DMO にならず、形だけになりかねない。本市をベースに意見するが、本市には競輪場があり、競輪場を核として、様々な自転車に関するイベントが行われているにも関わらず、KIX 泉州ツーリズムビューローからは「今のところ競輪場を、KIX 泉州ツーリズムビューローのコンテンツとしての考えに及んでいない」と述べられていました。大変に残念な発言である。では、どこがそのアピールを行うのかと言えば岸和田市である。岸和田市が KIX 泉州ツーリズムビューローにアピールし、KIX 泉州ツーリズムビューローが、さらに民間事業者とのコラボを模索し、そしてその輪を他市にも広げて行くことが大切である。そして一つ一つ成功事例を作ることができれば、必ず

他市にも影響を及ぼし、良い連鎖が生まれる。岸和田市ならそのリード役が務められるはずである。競輪場があるという強みを本当に岸和田市は理解しなければいけないし、競輪場を活用すれば観光促進につながることも理解しなければならない。しかも泉州サイクルルートの中に存在し、サイクリストから見れば優れた施設(クラブハウス)もある大型のサイクルステーションでもある。また、今後において宿泊施設を設置することができれば、ここでサイクリストの足を止めることができる。そのことは泉州に広がる自転車を活用した各市町の取組みをも、じっくりと見せることも可能になる。多角的に競輪場を活用することで、岸和田のみならず、泉州における観光促進にも繋げられる可能性が広がる。そう考えると競輪場を KIX 泉州ツーリズムビューローだけにとどまらず、様々な方面に岸和田市はアピールしていかなければならないと強く思うが、まずは KIX 泉州ツーリズムビューローの会議体においても岸和田市は競輪場をしっかりとアピールすることが重要である。要は岸和田市から仕掛けていくことである。KIX 泉州ツーリズムビューローのステージを借りて、まずは取り組むべきである。9市4町において、四季折々の見どころは、ほぼ共通している。それだけで岸和田市として秀でていることにはならない。それだけではサイクルリストから見て岸和田をチョイスする理由にもならない。岸和田市に訪れる目的を作らなければならない。その一つとして宿泊施設の存在があり、それはかなり大きい選択肢になる。KIX 泉州ツーリズムビューローとのかかわりだけではなく、岸和田市としての競輪場の活用を考えればなおさらである。現在でもトラックを活用して社会人から高校生の公式な大会等が行われている。イベントも行われている。BMX も同様である。自転車競技の拠点化が図れる。ましてやスケートボードの可能なコースを重ねれば、それこそ「サイクルパーク」として展開でき、現競輪場が核となりえると言える。それは泉州の観光にも繋げられると考える。既に、泉南市のビーチにはサイクリストも利用できる素晴らしいロケーションの宿泊施設ができています。また、関空橋の近くにサイクリストを収容する施設も計画されていると聞く。岸和田市は、この様な素晴らしい自転車に関する施設をどこよりも早く有していながら、発展的変化を嫌い、気が付けば置いてきぼりになりかねない状況であることに気づかなければならないと考える。

●KIX 泉州ツーリズムビューローが仕掛けている事業に対し、本市がどう活用し観光に繋げていくのが重要であると考えます。13 市町の温度差があるのが現状ですが、本市が率先して事業の活用を進めていくことが大事である。それを具体的に提言できるよう討論を深めたい。

●KIX 泉州ツーリズムビューローは、9市4町で構成されたメンバーが運営しているが、各行政の連携が十分ではないと感じた。色々な取組みの説明を受けたが、市内を見る限り効果を実感できない。Web 上でもっと全国的に PR をし、岸和田競輪場で

自転車愛好家の走行会や食事会、また、自転車関連のイベント等を開催して、岸和田を自転車情報の発信基地にしてはどうか。初心者からベテランまで参加できる、幅広い年齢層のサイクリング・サークルを設立し、“おもてなし”の心を込めて、自転車をもっと楽しんでもらえる仕組み作りをする。以上の事を進めるために、KIX 泉州ツーリズムビューローの施策に強く期待する。